

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第21号
2024年 3月18日
編集・文 吉成正士

(第20号からのつづき)



「それは違うよ」と言える人間に

■私は全体人権学習を通して、私が一番印象に残ったのは、吉成先生の家族の話です。部落差別は今もどこかにひそんでいて、先生やその家族のように何年たっても苦しめてしまうような存在です。

なぜ現代になっても差別意識がなくならないのか考えました。それは昔の人が生み出した価値観に現代の人が意味も分からず流されてしまっているのではないかと思います。人間は群れの中で生きていくので、独りになるのが怖いと思ってしまう部分が心のどこかにあると思います。私もその一人です。そこで西光万吉さんたちのように、誰かが声をあげてくれば、私は迷わずにみんなと違う方向へ行きます。声をあげることは不可能なことじゃない。自分からあげないといけなかったと思います。

私はこの動画を観て、私の家族を思い出しました。私の家族は病気にもかかっていなくて、部落出身でもありません。でも、そんな家族が部落差別をしたとき、私はどんな行動をとれるか分かりません。家族に言われたら納得してしまうかもしれません。そんなときに、今まで行ってきた人権学習で、「それは違うよ」と言える人間になれるように、大人になっても燃え尽きない勉強をし続けていきたいです。この1年、私は自分の短所や足りないところを見つける機会になりました。3年生になっても「燃え尽きない」で、精いっぱい頑張りたいです。 3組OS

「ゆずれない思い」

私にとって人権学習が、それです。私は過去に、それをゆずってしまった瞬間がありました。それはあまりにショックで、立っていられず、その場で泣き崩れたほどです。それ以来です。どんなことがあっても、絶対にこれだけはゆずらないと決めたのは。

人は、自分のなかで本当に大切にしているものをゆずってしまうと、自分が自分でなくなってしまう。 「どうしてこんなことをしてしまったんだろう」と、自責の念に駆られてしまいます。

「まわりの100人のうち99人が走っても、

ただ一人走らない自分であれ」

自分が正しいと思ったら、周りがどうであっても流されず、自分の信じた行動がとれる人間であれ、という意味です。いつも自分にそう言い聞かせています。皆さんもどうか、100人の一人に。

正面から向き合う自分の心

■「恥ずべきこと」とは何か、が差別意識や心に刻んでおく、人権に深く関係していることだと分かりました。皆の発表する率直な思いや自分自身のことを聞いて、動画の内容もよく想像できました。ハンセン病を、家族を守るために、家族を思って隠していたというのも疑問に残ります。本当に家族を思うなら、隠しているのが恥ずかしいことという思いがないのなら、本当のことを堂々と、ためらいなく言えたと思います。でも、言えなかったのは、周りにいる自分たちが障がいやハンセン病のことをマイナスばかりに捉えて、言いにくくさせているのも事実だと思います。「普通」ばかりに捉われず、世の中の多様さを分かってくのが大切ではないでしょうか。考えずに気持ちを言うのはよくないですが、本当の気持ちに嘘をついて、自分をごまかすのはもっと損です。それを言いやすくするためにも変わる必要があるのは、周りの環境や自分の気持ちと正面で向き合える自分の心だと思いました。

「恥ずべきではないことを恥ずかしがるのが本当に恥ずべきこと」ならば、これからの発表も自信をもって、姉の頑張りも自信をもって言えると思います。僕の周りの人たちはたくさん大切なことを教えてくれているからです。通常の発表だけで満足せず、追加の発表や上手に意見を伝えること、大切に仲間の意見を聞くことも頑張りたいです。 4組SH



いつか必ず、声をあげてほしいです。時間がかかっても、自分のため、大切な人のため、周りの人のために。人と人とのつながりを信じ抜き、今の自分を乗り越えられる自分であってほしいと願います。

仲間の発言で、自分が変わる

■私は今回の人権学習で意見を聞くなかで、身近に部落

差別はあったんだと感じました。私は部落差別について学習していても、「今はあまりないだろう」「部落差別は少し前のことであり、今はほぼ無い」という考え方でいました。ですが、自分の友達が発表しているのを聞くと、本当に身近にあって、今までの自分の考えが間違っていたと思いました。私はまだ自分の家族にハンセン病患者がいたのか分かりません。でも今回の学習で、家族と向き合い知ろうと思います。

吉成先生の、「みんなと同じじゃないといけないと自分で思い込み、合わせなくてもいいところも合わせてしまう」という言葉は、今の自分だと気づきました。意見を言うときも、少しみんなと考えが違うとなると、意見を言おうとする勇気がなくなります。でも、川上さんや酒井さんが言っていた、「本当の自分の心と向き合う」と聞いたときに、水平社の人々と重なり、発表する勇気が出ました。水平社の人々を尊敬していただけた自分が、プラス行動もしようと考え直すことができました。 3組DI

友達の言葉って大きいですね。それがこの学習の醍醐味です。みんなで語り合う人権学習の醍醐味です。もし自分の中だけで考えていたら、つまり自己完結させていたら、そうはならなかったかもしれません。その前に、部落問題が入ってなければ、そうはならなかったでしょうし、語り合ってもそうはならなかったかもしれません。そう思うと、このような機会は本当に大切だと思わされます。でも、仲間の語り聞くことで、それまでの自分からもう一つ高い次元に引き上げられるわけです。それが、この学習の醍醐味であり、仲間の存在の大切さです。そしていつか、あなたの言葉に影響を受ける友達もきっと出てきます。そこでできる心と心のつながりが、本当の絆というものです。



差別は夢を奪う

■小学6年生のころから思っていたことだが、どうして部落差別が起こるのかが分からない。その人が何かしたわけでもないのに部落出身だからといって差別したり、仕事をさせてもらえなかったり、結婚させてもらえなかったり。どうしてそんな人たちがばかりが嫌な目に合わないといけないのか不思議で仕方がない。

今回の人権学習では、水平社を立ち上げた人々はずごく勇敢な人だと思いました。自分の意見を言わないと何も始まらないような世の中だったのを、勇気を振り絞っ

て立ち向かったことが印象に残っています。自分がもしその立場だったらと考えると、自分は立ち向かうことができない気がしました。友達の意見で、「本当のことを言えないこと」が恥ずべきことと言っていて、言いたいことがあっても立ち向かわず、自分に嘘をついて生きていくということは恥ずべきことだと思いました。一番印象に残ったことは、「差別は夢を奪う」という言葉です。同じ人間なのに、その人だけがつらい思いをするのは良くないことだと思いました。差別をなくすためには、周りの小さなところから一つ一つなくしていけばいいと思いました。1組OR

あとはそれを、「できない」ではなく、行動に移すことです。水平社宣言にもあるように、人間は恥ずべき存在ではありません。人間は尊敬すべきものなのですから。あなたの存在だって、他の人と等しく、尊い存在なのですから。



自分は生まれていなかったかもしれない

■今回の人権学習では自分が考えていたことをもっと深めることができて良かったと思う。ハンセン病での差別と同じように、今でもコロナの差別が起こっていて、発表で言われていたように「みんなと同じじゃないといけないから」という考えで、今の社会では差別する方向に流されてしまう人が多いことが分かった。また部落差別も安田さんの結婚の話で、今も根強く残っていることが分かったし、「もし親が部落出身だったら自分は生まれていなかったかもしれない」という言葉を聞いて、差別することは知らないうちに人の命や夢を奪ってしまう恐ろしいものだと実感した。自分は周りや世間に流されずに、すべてのことに対して、まず自分で一度考えるようにしたい。この1年を通して人権学習を何度も続けることができたことを当たり前だと思わずに、これからも学び続けていきたいと思う。

4組KN

もし差別で命が奪われてしまえば、そのあとに続く命はない。それがもし自分の何世代か前にあったなら、自分は生まれていなかったかもしれない。本当にその通りです。そう思うと、空恐ろしい感覚に襲われます。部落差別でもハンセン病差別でも、それは起こりました。まさに差別やいじめは命を奪うということです。この教育は、そうならないための、何より大切な教育です。決して人ごとにしてはいけない教育なのです。

(第22号につづく)